

平成27年度 福井県公共事業等評価委員会 開催結果 概要

1 日 時 平成27年11月21日(土) 13:45～16:20

2 場 所 福井県庁 中会議室

3 出席者

(1) 委員 10名のうち9名出席

会 長	福原 輝幸	福井大学大学院工学研究科教授
委 員	岩佐 裕美	弁護士
	桑原 美香	福井県立大学経済学部准教授
	小嶋 啓介	福井大学大学院工学研究科教授
	後藤 麻理子	J A五連理事 経営管理委員
	鈴木 綾子	産婦人科鈴木クリニック副院長
	瀬尾 佳彦	敦賀美方農業協同組合常務理事
	高見 和宏	福井商工会議所事務局長
	三輪 英樹	株式会社三工光学代表取締役社長

(2) 事務局 (農林水産部) 白崎技幹、坂川参事
(土 木 部) 辻技幹、斉藤技幹(防災・特定事業)、小川技幹(都市計画)、
西出道路建設課長、鰐渕道路保全課長、岩崎河川課長、
勝木砂防防災課長、山内港湾空港課長
(総 務 部) 中尾財務企画課長、大石財務企画課長補佐

4 議事概要

(1) 開会

(2) あいさつ

(3) 再評価対象事業の概要説明、審議

(資料：再評価対象事業一覧表、再評価調書ほか)

【農林水産部評価対象事業】

(会 長) 農林水産部の再評価対象事業について説明を求める。

No.1 林道事業(若狭遠敷線)

(事務局からNo.1の事業内容を説明)

(委 員) 将来的に3,000m³/年搬出とあるが、これは住宅用、建築用やバイオマス用など全部合わせたものか。

(事 務 局) 今までは建築用が主であったが、再生可能な資源として新たな利用先がある。山に利用されずに残されていた用材として使えないものを全部運び出し、新たな方面で余すところなく使えるようになった。

(委 員) 間伐材も含めてということか。

(事 務 局) その通り。

(委員) 法面緑化について、鹿の食害への対策費がかなり高額に感じる。法面に人工的に植物を植え、それを鹿から守らないと、法面崩壊等につながるということか。

(事務局) 法面を緑化しないと降雨等により法面が侵食され、法面崩壊が発生することがあるため、法面の植生および保護は必要である。

(委員) 県民の立場からは2億円近くの経費は高額なイメージがある。

(委員) 山全体の下草を鹿が食べてしまった場所を切り開くとどうしても山の土が出やすくなり、雨が降ると土砂崩れが多くなる。最近、川にも泥水がどんどん流れ込んでいる。前回も要請したが、林道を作る時には法面对策をしっかり入念に行い、土砂崩れにならないように願います。経費は掛かるが必要なことであり、対策をお願いします。

新たな木材の利用として木質ペレットが示されているが、木質ペレットは一般人は利用しにくい。ペレットストーブが一時流行ったことがあるが、経費がかさむため利用しにくい。もう少し利用しやすいように考えるべきである。

(事務局) 現状ではあわら市の組合でペレットの加工施設を整備しており、ペレットを使って小規模、例えば、旅館、温室等の暖房の補助的な機能として有効的に活用されている。

(委員) 更なる利用拡大をお願いします。

(会長) ペレットの値段が高くなり、手に入りにくい状態である。全国的には需要が少しずつ増えている。本来は作った地域で消費するべきであり、需要の拡大に努めて欲しい。

(事務局) 木質ペレットの活用を広げていくため、温泉施設の熱源等にも使っているが、農業と結び付けるための試作、実証を行っている。積雪地帯である本県の弱点をメリット、強さに変えていくため、周年型で物を生産できるよう、木質ペレットによる小規模なボイラーを利用し、加温設備として活用することを進めている。色々な熱源をフルに利用していくため、木材については、山から間伐と同時に枝葉も含めて使っていく取組みをしている。

(会長) ペレットだけでなくチップとしての使い方もある。CO²の発生抑制用にもつながるので、県としても使い道を拡大するよう努めて欲しい。

(会長) 本事業については「継続」との評価でよろしいか。

(委員) 異議なし。

【土木部評価対象事業】

(会長) 土木部の再評価対象事業について説明を求める。

No. 8 雪寒地域道路事業（福井丸岡線）

No. 9 総合流域防災事業（三方五湖）

（事務局からNo. 8、No. 9の事業内容を説明）

(委員) 三方五湖について、平成25年度の台風18号では、鱒(はす)川流域でかなり浸水があったと思う。また、年縞のことについても問題無くなってきた。そういうこともあって、現地からの理解は得やすい状況になり、今後は予定通り、つまり次回再評価時に事業期間の延長は無いという、見込みがたったということか。

(事務局) 検証会議での年縞への影響は無いという結果を踏まえ、計画内容等について、地元説明会を地区ごとに実施している。その中でも特に大きな心配や反対の声は今のところは聞こえてきていない。

さらに平成25年の台風で地元の方も治水に対する意識が高くなっており、事業遂行に対する問題点はかなりクリアできているという認識を持っている。

(委員) 放水路の湖側の人はやはり早く掘って欲しい、作って欲しいという想いだと思うが、海側の人との話し合いというのはきちんと出来ているのか。

それともう一点、トンネルは欲しいという話は聞いているが、湖岸堤の嵩上げについては、シジミが居なくなるのではないかという心配や、砂浜みたいにして欲しいという意見も聞こえてくるので、湖岸堤を嵩上げすることが、本当に地元の人の承諾を得ているのか。これらを確認したい。

(事務局) まず、海側との話し合いという点だが、先ほど少し触れた年縞を中心とする環境に関する影響を検証する検証会議を今年の3月に終えている。その際に、海側の代表の方には委員として参加してもらい、その中の議論で心配事や懸案事項を指摘して頂いており、内容について理解してもらった上で、その委員の方を含めた形で最終的には問題は無しという結論となっている。

ただ、代表の方の反対が無いから地元が納得している、という訳では無いと理解しており、現在、海側の漁業者や地区住民に対して、若狭町にも入っていただいた形で、地元説明を実施しており、その中で心配事があればきちんとお答えして、今のところは、順次理解を頂いていると認識している。

湖岸堤の嵩上げについては、今申し上げたような経過で説明させて頂いているところで、総論としては理解していただいている。ただ、実際に事業に入る際には、砂浜にして欲しいとか、シジミに影響の無いような方法があるのではないかとか、といった要望について地元の方の意見を聞きながら進めていきたい。

(委員) 年縞への影響について懸念されていたことについては、影響がないということで保証されているということか。それと今後完成した後も引き続き調査を実施していくのか、それによって維持管理費が当初の予定よりも増大してしまうことはないのか。

(事務局) 作ったあとにモニタリングをずっと続けていくのは難しいところがあるが、環境の状況については、地元の方に話を聞いたり、我々でも一定の調査をしたりすることで、放水路がどのように環境に影響するのか把握に努めていきたい。

それに伴い、追加の維持管理費が発生することは否定できないが、現時点では、出水があったときのみゲートを開けて水を流す、普段は止めて現在の水の流れを変えない、というように計画しており、大きな影響は無いと考えている。

(委員) 環境に影響を及ぼすものではなく、計画通りということか。

(事務局) はい。

(会長) 雪寒の事業に関しては、えちぜん鉄道と福井鉄道の相互乗り入れ等の問題があって、延長されたが、事業そのものは順調ということである。

総合流域防災事業に関しては、年縞への影響、また、漁業との折り合いということで議論があったが、今のところは順調ということである。

この2事業は、事業費そのものは今のところ変わっていないが、事業期間が延びるということで、今回審議している。

(委員) 農林水産部の事業で、労務費が上がったという話があったが、なぜ、この事業は労務費が関係しないのか。

(事務局) 今後、詳細設計や工事に入っていく段階で、労務費や材料費を反映させていくことになるが、現時点では計画の中での概略の総事業費ということで、労務費などの変動を反映させていないということである。

併せて、不確定な要素もあるが、コスト縮減も図りながら、この事業費の中で収められるように努めていきたいと考えている。

(会長) No. 8、No. 9は「継続」との評価でよろしいか。

(委員) 異議なし。

No. 1 1 地すべり対策事業 寺地地区

No. 1 2 海岸環境整備事業 和田港海岸

(事務局からNo. 1 1、No. 1 2事業内容を説明)

(委員) 地すべりブロックの動きを確認するため、モニタリングとかボーリング調査等どのように行っているのか。

(事務局) 最初は目に見えるようなところ、つまり、神社の石垣が崩れるとか上流端に陥没があって前に押し出しているのではないかという事で調査に入っている。順次、下流の方から水位を観測していて、上流の方は平成22年以降になって動きがはっきりしてきた。

(委員) 地すべり土塊の変位量は計測しているのか。

(事務局) 調査ボーリング孔の中にひずみ計や傾斜計を入れて観測していて、雨が降った時の動きの累積などですべり面を確認している。

(委員) 再評価調書の中に「地下水位上昇等により」とあるが、集水井が施工された後に地下水位の上昇があったということか。集水ボーリングの効果をどのようにモニタリングしているのか。

(事務局) 雨の状況により変わるが、平成16年の福井豪雨の時はかなり水位が上がった。水抜きボーリングを施工した年は下がっていても、その次の年に雨が多い場合、また水位が上がってしまうような場合もあるので、水位の観測を行い安全率の推移を見ながら事業を進めている。

- (委員) 水抜きボーリングが施工される以前の地下水位と工事が進捗した後の地下水位の低下傾向は工事の効果を確かめる上で非常に大事だが、その確認はどうしているのか。
- (事務局) 集水井の施工直後の平成25年度末に観測水位が大きく下がっている事を確認している。
- (委員) 水抜きボーリングを実施後に、確実に水位が下がっているという効果が分からないと、今後事業を進めていかどうかという事が判断できない。
下流側に施工した集水井の影響で下がったという事ですね。了解した。
- (会長) 今後は、工事を実施した成果を時間軸で見える形で見せていただけると、事後評価しやすいのでよろしくお願ひしたい。
- (会長) No. 11、No. 12は「継続」との評価でよろしいか。
- (委員) 異議なし。

No. 13 道路改良事業（丸岡川西線）

No. 14 道路改良事業（一般国道416号）

（事務局からNo. 13、No. 14の事業内容を説明）

- (会長) 説明にもあったように、2つの道路改良事業だが、地盤が非常に悪いということで、お金がかかったということである。
- (委員) 国道417号ですが、地権者の交渉に時間がかかったということだが、2件の用地は大体買えるという状態なのか。
- (事務局) 圃場整備区域内の方は、圃場整備組合と話しておりあらかじめ目途がつきかけている状況。圃場整備区域外の方は、事業の必要性などこれからも説明を続けていきたい。
- (委員) 用地買収が終わっているところはボーリングは終わっているのか。
- (事務局) 用地買収が終わってないところはやっていない。最終的には、完成年度を考慮しながらいろんな方策を考えていきたい。
- (委員) 用地買収を終えていないところの付近の地質は大体同じか。
- (事務局) 近辺で用地を買えているところで調査しており、想定では大きく変わらない。
- (委員) ボーリング調査はわかるが、サウンディング調査とは何か。
- (事務局) ボーリング調査によりその箇所で地質情報を把握するが、サウンディング調査はボーリング調査箇所と隣の箇所との間で行った。この調査は電気で抵抗値を測定し、土質を把握するものであり、ボーリング調査とあわせて土質区分図を作成した。
- (委員) 確実なのはボーリング調査か。
- (事務局) 目で見えて確実なのはボーリング調査である。
- (委員) 国道416号の道路の改良は半分だけなのか。

(事務局) この路線は三国の方へ行くが、福井三国線までは4車線で整備済み。その先は、バイパスなので先にテクノポートへつなぐのが先決ということで、2車線で事業をしている。まず2車線分で必要なところの改良をこの事業で行っており、残りの2車線はまだ施工しない。

(委員) 今回、変更しようとしている全体事業費が54億円で、そのうち国の補助が33億円あるが、当初、全体事業費が39億円と申請していて、途中で30%ほどあまりアップするが、国はそのまま認めるのか。

(事務局) 国と協議し、説明してご理解いただく。

(委員) 当初予定よりも軟弱地盤が厚かったという話だが、県として、最初に全体事業費を少なめに出しといて、あとから増額するという作戦なのか。あるいは、全体事業費を削減し効率のよい基盤整備をする方法もあるのではないかと。周辺が持っている地盤情報を活用すればよいのであり、周辺で圃場整備しているわけなのだから、当然50cmのところは支持層が出ないことはわかっているはずである。横のつながりを活用し県全体がもっている地盤情報をもっと有効活用し、事業費が上がったのではなく、下げたというようにもっていかないと税金の無駄使いとか多いと思う。土木とか農業土木とか県全体としてもっと横のつながりを密にして、情報活用するとよいのではないかと印象として持った。

先の橋の件だが、全体として120億の工事で、支持層を周辺の天管生橋を想定で設計するのは変な感じがする。当然、橋が通過するところでボーリングをしていくらになるかという設計をしないとイケない。120億という金額をだすのであれば、地盤情報、地質調査をきちっとする、その辺が納得いかないところがある。

(事務局) 公共事業をする際に、小さくしてそれから増やしていこうという考えはない。往々にして、そういう傾向が多く取りざたされているのは事実。事業化時は用地が買えていない。今でいうと、河川の中でのボーリング調査になり、そこでボーリングをするには相当のお金がかかるということで、橋の橋脚の位置でボーリング調査をしていないのが事実。そのため、事業化時はこれまでの施工実績とかに頼らざるを得ないというのが現状で、支持層が10mも違うというのは想定外で申し訳ないというところ。実際に、事業化になってから、橋脚の位置でボーリングや地質調査をするわけですが、その調査などに約1億6千万あまりのお金がかかり、国費がもらえる交付金となってから調査をしているのが現状。どこまで事業化に際して準備をするかということであり、少ない費用で最大限の効果が得られるよう、県ではボーリングデータをデータベース化しているところなどに生かしていきたい。圃場整備区域内のところに関しては、農林との調整はとっていたが、事業の着手時期は同じであり、想定された支持層は農林も土木も同じだった。

今後、データを蓄積して、事業化までの精度をあげていくよう生かしていきたい、建設技術センターや建設技術公社も含めてデータを蓄積していきたい。

(委員) 国道416号のバイパスに実際に車が走れるのは何年になるのか。

(事務局) 平成32年を予定している。

- (委員) 平成30年に福井国体があり、新港にサッカー場があるが、あそこは競技予定地になっているのか。
- (事務局) 丸岡スポーツランドが競技予定地だと思う。
- (委員) 確かテクノポートも使用するはず。平成32年からあと2年繰り上げたほうがよいと思う。
- (事務局) 精一杯努力する。
- (委員) 用地買収の交渉期間に4年かかるというのは設定としてよいのか。
- (事務局) 用地買収としては、圃場整備区間は、圃場整備事業で用地を用意してもらい、道路事業で用地を買収することになっているため、圃場整備事業で用地の地元調整をお願いしているが、時間がかかってしまったというのが実情。
- 圃場整備区域以外のところは、地図と現地の面積が合わないということで、その調整に時間がかかっている。地権者には地図訂正案をお示しし、ご理解をいただくよう調整を進めている。
- (事務局) 単純に用地交渉に4年遅れたので、事業期間を4年延ばすのではない。工事でも工期が伸びるが、できるだけ縮めて4年にしていく方針。
- (会長) 言いたかったのは4年が3年にどうしてもならなかったのかというところの話。
- (事務局) 用地補償は平成24年に終える予定だったが3年経過してまだ2名残っている。
- (委員) 今の説明だと2名を全然相手にしていないというのではなく、すぐにでも話がまとまるように聞こえる。
- (事務局) 新幹線とか高速道路みたいに、絶対この時期までにということであれば、収用とか手法があるが、基本的に任意の交渉でご理解いただくということが前提ですすめている。
- (委員) ある程度ここまで用地買収を済ませるという期間の予定、目途はあるのか。
- (事務局) 今は平成28年度中に用地買収を終えたい。
- (委員) 希望と現状が一致するのか。
- (事務局) 一致するようにしようと思っている。
- (委員) 私も、委員と同様、国体までにやはり道路を通すべきという思いがあり、現場的に難しいというのはわかるが、目的をはっきり決めてそれから期間を計算しないと費用と期間とだらだらとかかかってしまうというのが一般市民として感じてしまう。
- (会長) 県民、市民としてどう思うのかという観点で、代表して意見を言っていたらとご理解願いたい。できるだけ謙虚に、お金がかかるのであれば、できるだけ早くというのが一般の方の思いである。
- (会長) No. 13、No. 14は「継続」との評価でよろしいか。
- (委員) 異議なし。

No. 1 6 福井駅付近連続立体交差事業（JR北陸線 他2線）

（事務局からNo. 1 6の事業内容を説明）

（委員）増額要因である資材費、労務費の高騰について、増額割合の大きい労務費はどれぐらい上がっているのか。

（事務局）労務費は、平成23年までは下がる傾向にあったが、東日本大震災の影響で平成24年から平成27年で23.3%上昇している。

（委員）このあと、オリンピック需要でかなりの人員をとられると想定すると、労務費がとどまるのか不安に感じるが大丈夫なのか。

（事務局）今のところ、北陸地区についてはある程度の人員は確保されていると建設業界から聞いている。労務費も高止まりするだろうと想定している。

（委員）本事業の経費はすべて県で負担しているのか。

（事務局）事業費の96%を国や県、福井市が負担し、残り4%をえちぜん鉄道（沿線4市1町）が負担している。この事業により踏切が無くなり維持管理費が不要になる等、メリットもあるため、鉄道事業者にも応分の負担をしてもらう。これは全国でも一般的なルールである。

（委員）県の負担割合はいくらか。

（事務局）全体事業費683億円のうち、国負担が310億円、県負担が251億円、福井市負担が93億円、鉄道事業者負担が29億である。

（会長）No. 1 6は「継続」との評価でよろしいか。

（委員）異議なし。

No. 1 道路改良事業（一般国道365号）

No. 2 総合流域防災事業（南河内川）

No. 3 砂防事業（羽生川支川）

No. 4 砂防事業（堀川）

No. 5 砂防事業（三谷川支川）

No. 6 急傾斜地崩壊対策事業（北山地区）

No. 7 急傾斜地崩壊対策事業（久々子地区）

No. 1 0 砂防事業（車持川）

No. 1 5 ダム建設事業（吉野瀬川ダム）

（会長）事前送付された調書で事業内容をすでに確認できており、今回説明を省略したNo. 1～No. 7、No. 1 0、No. 1 5の事業は「継続」との評価でよろしいか。

（委員）異議なし。

【総括】

(会長) 農林水産部および土木部合わせて、17事業すべて「継続」となった。

事業費増額の話もあり、ボーリングなどの予備調査に関して、より正確な調査の実施、および、調査結果のデータベース化や他部局との情報交換などにより、ミスマッチのないような事前調査を実施して頂きたい。

事業効果についても、わかりやすい表現で説明して頂きたい。

また、小額から事業化し、その後、予算を増額していくと思っている方もいないわけではない。公共事業はよく考えて実施しているということを県民に理解して頂けるような説明を行うよう肝に命じて事業に励んで頂きたい。

(4) 閉会